

第5回多摩市自治推進委員会 要点記録

平成26年1月16日（木）18：30～20：30

多摩市役所3階 特別会議室

出席者：安藤委員長、松本副委員長、小嶋委員、田中委員、横山委員

欠席者：川添委員

事務局：企画政策部長、企画課長、企画課主査、企画課主事

審議：今後の取り組みについて

□開会

委員長 前回は、行政の地域課題に対する取り組み（公共施設の見直しの取り組み、多摩ニュータウン再生の取り組み等）について、事務局から説明いただいた。

今回は、これまで議論してきたことを踏まえ、今後自治推進委員会でどのようなテーマについて議論し、提言するかを話し合いたい。

まずは、本日の配付資料「多摩市行政経営報告書」について、事務局から説明をお願いしたい。

資料に基づき、事務局から説明を行った。

委員 ご説明いただいた中で、「各部の目標及び取り組み方針」（P152～P188）について、詳しく教えていただきたい。

事務局 第五次多摩市総合計画の将来都市像の実現に向けて、各部の部長がそれぞれ部の目標と、その目標達成のための取り組み方針を年度当初に設定している。

平成25年度からは、目標を設定するだけでなく、その達成状況を明らかにし、次年度の組織の目標設定に反映させることとした。これらの取り組みにより、部長をトップとした組織のマネジメント力の強化を図っている。

委員長 目標に対して何を行ったのか、事実の羅列だけではわかりにくい。もう少し課題が明確になると良い。また、成果指標についても、数値で表せる評価のみではなく、質的な分析もあると良い。

副委員長 成果指標を見直すことはあるのか。

事務局 来年度（平成 26 年度）に総合計画の見直しを行うが、その際に、成果指標等の見直しも行う予定である。

委員長 ご説明の中で、平成 25 年 8 月に「行政評価市民フォーラム」を開催したとある。そのフォーラムにおける市民評価について、詳しく教えていただきたい。

事務局 「行政評価市民フォーラム」は、市民と行政の情報共有を図るとともに、市民と行政が共に汗をかきながらまちづくりを進める行政運営への転換を目指して、平成 22 年度から行っている。

平成 25 年度は、無作為抽出で選ばれた 17 人の市民を含む 28 名の参加者で、第五次多摩市総合計画の施策の進捗状況などについて議論していただいた。具体的には、「地域における高齢者施策」及び「充実した都市機能の維持・更新」の 2 施策について、市の担当職員からの事業説明の後、参加者による質疑を経て、グループ毎に議論していただいた。評価の際には、A~D の 4 段階で施策の進捗状況について評価していただいた。

委員長 この取り組みのように、市民が評価へ参画する機会を確保し、情報公開を推進していくことは重要である。

事務局 今後も、市民と対話する機会を積極的に増やしていきたい。また、行政評価市民フォーラムは、事業の説明をした担当職員や、研修として参加した若手職員にとっても、勉強になる部分が多かった。

委員長 現状では、市民と市職員の関係は、対話でなく対立となる場合が多い。市民と対話していくための仕組みを作っていくことが重要である。

委員 P194 の「② 子どもの居場所づくり」で、児童館で中高生の居場所づくりのための事業をして、延べ 1,238 人増加したとある。このことについて、教えていただきたい。

事務局 平成 23 年度から駅近の児童館 2 館（一ノ宮児童館、唐木田児童館）で、中高生の居場所づくりを目的として、開館時間を従来の午後 6 時から午後 7 時まで延ばしている。その結果、延べ人数で 1,238 人の利用者の増加があった。今後、ニーズ調査をして、好評であれば、他の児童館でも実施していきたい。

委員 確かに、子育てをしている立場として、中高生の居場所が少ないと感じている。親からのニーズはあると思う。こうした取り組みは素晴らしいと感じる。

委員 私もそう思う。多摩市出身の子は学童を卒業した子も多く、顔馴染みの先生も多いのではないかな。

事務局 また、その他の取り組みとして、放課後の学校で地域の方と一緒に学習やスポーツ・文化活動等を行う「放課後こども教室」を公立小・中学校 27 校中 13 校で実施している。

委員長 学校内での取り組みでは、子どもにとっては学校の延長線上となり、面白くないのではないかな。やはり、地域の中で、地域の方々と子どもが交流できる場所があると良い。重要なことは、行政の持っているノウハウと、市民の持っているアイデアを重層的に組み合わせることである。

これからテーマを絞り込んでいく中で、これまではコミュニティの在り方を中心として議論してきたが、他に多摩市をより良くするためのアイデアはあるかな。

委員 多摩市は、緑の多い点が魅力であるが、その魅力を活かし切れていないと感じる。その緑の豊かさを生かした、人が多く集まるようなイベントがあると良い。例えば、調布市では、都立神代植物公園のバラフェスタが人気を呼んでいる。また、埼玉県秩父市の羊山公園では、「芝桜の丘」が多くの観光客を呼び込んでいる。そうした場所ではボランティアが多く活躍している。このように、イベント自体の魅力から、観光客やイベントの担い手が自然と集まってくるようになると良い。

また、企業誘致も必要だと感じている。やはり、人を安定して入れるには、働く場所が必要である。

事務局 多摩市にも、人が多く集まるような公園がある。例えば、都立桜ヶ丘公園は、桜の季節には市内外から多くの花見客が訪れている。

また、現在、公園緑地課では「みどりのルネッサンス」のもとに、市民とともに公園緑地の活用方法を検討している。

企業誘致については、平成 14 年 4 月に制定し平成 20 年に改定施行した「多摩市企業誘致条例」に基づき、多摩センター地区等で積極的な誘致活動を行っている。

しかし、課題として、雇用の場が少ないことが挙げられる。中小企業の数が少ない。これまで、大企業のデータセンターを進出が多かったため、今ひとつまちの賑わいが生み出せていない。

委員長 企業の誘致は、税収を上げるだけがミッションではない。誘致の際には、地域の賑わいを生み出すための条件をつけることも必要ではないか。

また、公園の利用については、前回の議論にもあったが、規制を緩和・解除し、楽しく遊べるような仕組みを作りたい。例えば、公園内にカフェを設置し、カフェで過ごす保護者の目の届く範囲で子どもを遊ばせたい。

長期的な視点で考えると、将来のまちを背負っていくのは、今の小・中学生である。子どもが主役のまちをどう作っていくか。子どもの夢が一部でも実現していく仕組みがあると良い。そのためには、子どもと高齢者の交流の場をどう作っていくかを考えることも重要である。

委員 イベントに子どもが来ると、保護者も訪れて交流が生まれる。私が所属する自治会でも、そういった企画を作らないといけない。しかし、子ども会との連携が取れていない。

委員 確かに、子ども会と自治会・町会・管理組合との交流はほとんど無く、もったいない。

副委員長 そうした交流を生み出すためのきっかけづくりが必要だと考える。

委員長 これまでの議論の中で、そうした交流を生み出すための仕組み作りなど、地域には様々な課題があることがわかった。今後の取り組みとして、地域課題を解決するためのアイデアを、実践モデル的に考えてみるのはいかがか。

副委員長 賛成である。これからは、まちとして課題を積み上げていかなければならない。また、課題解決のためには、実践的に取り組んでいく必要がある。例えば、大学生など、誰かが入ることによって解決するかもしれない。大学生にとって、学校以外の場は貴重である。一番いけないのは何も関わらないことである。

委員 例えば、コミセンに子どもを呼ぶとすると、静かに過ごしたい高齢者もいるため、衝突が起こるかもしれない。ルール作りが必要かと思う。

副委員長 困っていることがわかると、解決の仕組みが考えられる。重要なことは、行政がルールを作るのではなく、市民同士で作ることである。どうしたら両者が上手く折り合えるのかを考え、解決に導く。そうした事例を増やし、市民同士で共有していくことが重要である。

委員長 例えば、本委員会に課題を抱える人や団体を呼んでくることは可能か。

事務局 可能である。例えば、行政が抱えている課題（コミセンのお風呂の跡スペースの活用問題、空き家の問題等）に関して、市役所内の担当者や NPO 団体等の当事者を呼ぶことはできる。一方で、委員が地域で抱えている課題も挙げていただきたい。

委員長 次回以降、これまでの議論を整理して具体的なテーマを決めていきたい。次回の開催日は、2月13日木曜日とする。これで第5回委員会を閉会する。

□閉会